

<No22：地図編集>

次の1～5の文は、地図投影法について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の1～5の中から選べ。

1. 地図投影では、立体である地球の表面を平面で表すため、地図には必ず何らかのひずみが生じる。このため、表現したい地図の目的に応じて投影法を選択する必要がある。
2. 正角図法は、地球上と地図上との対応する点において、任意の2方向の夾(きょう)角が等しくなり、ごく狭い範囲での形状が相似となる図法である。
3. ユニバーサル横メルカトル図法は、北緯 84° 以南、南緯 80° 以北の地域に適用され、経度幅 6° ごとの範囲が一つの平面に投影されている。
4. 平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)におけるY軸は、座標系原点において子午線に直交する軸とし、真東に向かう方向を正としている。
5. 国土地理院の「500万分1日本とその周辺」は、地図主点である東京から方位と距離が正しく表される地図であり、ガウス・クリューゲル図法で地図投影されている。